



セルフプロビジョニングの設定

- [セルフプロビジョニングの概要, 1 ページ](#)
- [セルフプロビジョニングの前提条件, 2 ページ](#)
- [セルフプロビジョニングの設定タスク フロー, 3 ページ](#)

セルフプロビジョニングの概要

セルフプロビジョニング機能により、エンドユーザが管理者に連絡せずに自社の電話機をプロビジョニングできるようにすることで、電話機を自社のネットワークにプロビジョニングします。システムがセルフプロビジョニング用に設定されていて、個々のエンドユーザがセルフプロビジョニング可能になっていると、そのエンドユーザは電話機をネットワークに接続していくつかの指示に従うことにより、新しい電話をプロビジョニングできます。Cisco Unified Communications Manager は、事前に設定されたテンプレートを適用して、電話回線および電話を設定します。

セルフプロビジョニングは、管理者がエンドユーザに代わって電話のプロビジョニングに使用するか、またはエンドユーザがセルフプロビジョニングを使って自社の電話機のプロビジョニングを行うかの、いずれにも使用できます。

クラスタのセキュリティ設定が非セキュアでも、混合モードでも、セルフプロビジョニングはサポートされています。

セキュリティ モード

次の2つのモードのいずれかで、セルフプロビジョニングを設定できます。

- **セキュア モード**—セキュア モードでは、ユーザまたは管理者は、セルフプロビジョニングにアクセスするためには認証されている必要があります。エンドユーザは、自分のパスワードまたはPIN に対して認証されることができます。管理者は、事前設定された認証コードを入力できます。
- **非セキュア モード**—非セキュア モードでは、ユーザまたは管理者は、自分のユーザ ID、またはセルフプロビジョニング ID を入力して電話とユーザ アカウントを関連付けることができます。非セキュア モードは日々の使用には推奨されません。

ユニバーサル回線とデバイス テンプレートによる設定

セルフプロビジョニングでは、エンドユーザにプロビジョニングされた電話および電話回線を設定するために、ユニバーサル回線テンプレートとユニバーサルデバイステンプレートの設定を使用します。ユーザが自分の電話をプロビジョニングすると、システムはそのユーザのユーザプロファイルを参照し、関連付けられているユニバーサル回線のテンプレートをプロビジョニングされた電話回線に、ユニバーサルデバイステンプレートをプロビジョニングされた電話に適用します。

セルフプロビジョニング電話

機能が設定されると、次の操作を実行して電話をプロビジョニングできます。

- 電話をネットワークに接続します。
- セルフプロビジョニング IVR 内線番号をダイヤルします。
- 指示に従って電話を設定し、エンドユーザに電話を関連付けます。セルフプロビジョニングをどのように設定したかによって、エンドユーザはユーザ パスワード、暗証番号、PIN、または管理用の認証コードを入力します。



ヒント

エンドユーザに代わって多数の電話をプロビジョニングしている場合、セルフプロビジョニング IVR 拡張に転送するユニバーサル デバイス テンプレートに短縮ダイヤルを設定します。

セルフプロビジョニングの前提条件

セルフプロビジョニングを使用するためには、エンドユーザは次の項目を設定します。

- エンドユーザには、プライマリ内線番号が必要です。
- エンドユーザは、ユニバーサル回線のテンプレート、ユニバーサル デバイス テンプレートを含む、ユーザ プロファイルまたは機能グループ テンプレートに関連付けられる必要があります。ユーザ プロファイルは、セルフプロビジョニング用に有効にする必要があります。詳細は、[ユーザ プロファイルの設定タスク フロー](#)を参照してください。

関連トピック

[エンド ユーザの設定](#)

セルフプロビジョニングの設定タスク フロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	セルフプロビジョニングのサービスの有効化, (3 ページ)	Cisco Unified Serviceability で、[セルフプロビジョニング IVR (Self-Provisioning IVR)] サービスと [CTI Manager (CTI Manager)] サービスを有効にします。
ステップ 2	セルフプロビジョニング用自動登録の有効化, (4 ページ)	セルフプロビジョニングの自動登録パラメータを有効にします。
ステップ 3	CTI ルート ポイントの設定, (5 ページ)	セルフプロビジョニング IVR サービスを処理するように CTI ルート ポイントを設定します。
ステップ 4	CTI ルート ポイントへの電話番号の割り当て, (6 ページ)	ユーザがセルフプロビジョニング IVR にアクセスする場合にダイヤルする内線番号を設定し、その内線番号を CTI ルート ポイントに関連付けます。
ステップ 5	セルフプロビジョニング用アプリケーション ユーザの設定, (6 ページ)	セルフプロビジョニング IVR のアプリケーション ユーザを設定します。CTI ルート ポイントをアプリケーション ユーザに関連付けます。
ステップ 6	システムのセルフプロビジョニング設定, (7 ページ)	アプリケーション ユーザや CTI ルート ポイントをセルフプロビジョニング IVR に関連付けるなど、システムのセルフプロビジョニング設定を実行します。

セルフプロビジョニングのサービスの有効化

セルフプロビジョニング機能をサポートするサービスをアクティブにするには、次の手順を使用します。セルフプロビジョニング IVR および Cisco CTI Manager サービスの両方が実行されている必要があります。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified Serviceability から、[ツール (Tools)] > [サービスの有効化 (Service Activation)] を選択します。
 - ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスからパブリッシャ ノードを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
 - ステップ 3 [CM サービス (CM Services)] で、[Cisco CTI Manager] をオンにします。
 - ステップ 4 [CTI サービス (CTI Services)] で、[Self Provisioning IVR] をオンにします。
 - ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。
-

次の作業

[セルフプロビジョニング用自動登録の有効化, \(4 ページ\)](#)

セルフプロビジョニング用自動登録の有効化

セルフプロビジョニングを使用するには、パブリッシャで自動登録パラメータを設定する必要があります。

はじめる前に

[セルフプロビジョニングのサービスの有効化, \(3 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] で、[システム (System)] > [Cisco Unified CM (Cisco Unified CM)] を選択します。
 - ステップ 2 パブリッシャ ノードをクリックします。
 - ステップ 3 プロビジョニングされる電話機に適用する [ユニバーサルデバイス テンプレート (Universal Device Template)] を選択します。
 - ステップ 4 プロビジョニングされる電話機の電話回線に適用する [ユニバーサル回線 テンプレート (Universal Line Template)] を選択します。
 - ステップ 5 [開始電話番号 (Starting Directory Number)] と [終了電話番号 (Ending Directory Number)] フィールドにプロビジョニングする電話に適用する電話番号の範囲を入力します。
 - ステップ 6 [この Cisco Unified CM では自動登録は無効にする (Auto-registration Disabled on the Cisco Unified Communications Manager)] チェックボックスをオフにします。
 - ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。
-

次の作業

[CTI ルートポイントの設定, \(5 ページ\)](#)

CTI ルートポイントの設定

セルフプロビジョニング IVR 向けの CTI ルートポイントを設定する必要があります。

はじめる前に

[セルフプロビジョニング用自動登録の有効化, \(4 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、[デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] を選択します。
 - ステップ 2** 次のいずれかの手順を実行します。
 - a) [検索 (Find)] をクリックし、既存の CTI ルートポイントを選択します。
 - b) [新規追加 (Add New)] をクリックして、新しい CTI ルートポイントを作成します。
 - ステップ 3** [デバイス名 (Device Name)] フィールドに、ルートポイントを識別する一意の名前を入力します。
 - ステップ 4** [デバイスプール (Device Pool)] ドロップダウンリストボックスから、このデバイスにプロパティを指定するデバイスプールを選択します。
 - ステップ 5** [ロケーション (Location)] ドロップダウンリストボックスから、この CTI ルートポイントに適切な場所を選択します。
 - ステップ 6** [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] ドロップダウンリストボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディアエンドポイントにトラステッドリレーポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを選択します。デフォルト設定はこのデバイスに関連付けられた共通デバイス設定を使用します。
 - ステップ 7** [CTI ルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)] ウィンドウでその他のフィールドに入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
 - ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。
-

次の作業

[CTI ルートポイントへの電話番号の割り当て, \(6 ページ\)](#)

CTI ルートポイントへの電話番号の割り当て

セルフプロビジョニング IVR の利用のためにユーザがダイヤルする内線番号を設定するには、次の手順を使用します。その内線番号をセルフプロビジョニングに使用する CTI ルートポイントに関連付ける必要があります。

はじめる前に

[CTI ルートポイントの設定, \(5 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM の管理から、[デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] を選択します。
 - ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックし、セルフプロビジョニングを設定する CTI ルートポイントを選択します。
 - ステップ 3 [関連付け (Association)] の下にある [回線 [1] - 新規 DN を追加 (Line [1] - Add a new DN)] をクリックします。
[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 4 [電話番号 (Directory Number)] フィールドに、ユーザがセルフプロビジョニング IVR サービスを利用するためにダイヤルする内線番号を入力します。
 - ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。
 - ステップ 6 [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの残りのフィールドを入力します。フィールドとその設定を含むヘルプは、オンラインヘルプを参照してください。
 - ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。
-

次の作業

[セルフプロビジョニング用アプリケーションユーザの設定, \(6 ページ\)](#)

セルフプロビジョニング用アプリケーションユーザの設定

セルフプロビジョニング IVR 用にアプリケーションユーザを設定し、アプリケーションユーザに作成した CTI ルーティングポイントに関連付ける必要があります。

はじめる前に

[CTI ルートポイントへの電話番号の割り当て, \(6 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、[ユーザ (User)] > [アプリケーション ユーザ (Application User)] を選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかの手順を実行します。
- a) 既存のアプリケーションユーザを選択するには、[検索 (Find)] をクリックして、アプリケーションユーザを選択します。
 - b) 新しいアプリケーションユーザを作成するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [ユーザ ID (User ID)] テキストボックスに、アプリケーションユーザの一意の名前を入力します。
- ステップ 4** アプリケーションユーザの [BLF プレゼンス グループ (BLF Presence Group)] を選択します。
- ステップ 5** アプリケーションユーザに作成した CTI ルーティング ポイントを関連付けるには、次の手順を実行します。
- a) 作成した CTI ルーティング ポイントが、[使用可能なデバイス (Available Devices)] リストボックスに表示されない場合は、[別のルート ポイントを検索 (Find More Route Points)] をクリックします。
作成した CTI ルーティング ポイントが、利用可能なデバイスとして表示されます。
 - b) [使用可能なデバイス (Available Devices)] リストボックスで、セルフプロビジョニング用に作成した CTI ルーティング ポイントを選択し、下矢印をクリックします。
[制御するデバイス (Controlled Devices)] リストボックスに、[CTI ルートポイント (CTI Route Point)] が表示されます。
- ステップ 6** [アプリケーション ユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウの他のフィールドを設定します。フィールドとその設定を含むヘルプは、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。
-

次の作業

[システムのセルフプロビジョニング設定, \(7 ページ\)](#)

システムのセルフプロビジョニング設定

システムをセルフプロビジョニング対応に設定するには、次の手順を実行します。セルフプロビジョニングにより、ユーザは IVR システムを介して、管理者に連絡することなく、ネットワークに自分のデスクの電話機やソフトクライアントを追加できます。



(注) セルフプロビジョニング機能を使用するには、エンドユーザのユーザ プロファイルでも該当機能を有効にする必要があります。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、[ユーザ管理 (User Management)] > [セルフプロビジョニング (Self-Provisioning)] を選択します。
- ステップ 2** セルフプロビジョニング IVR でエンドユーザを認証するかどうかを設定するには、次のオプションボタンのいずれかをクリックします。
- [認証が必要 (Require Authentication)] : セルフプロビジョニング IVR を使用するには、エンドユーザが自分のパスワード、PIN、またはシステム認証コードを入力する必要があります。
 - [認証は必要なし (No Authentication Required)] : エンドユーザは認証なしでセルフプロビジョニング IVR にアクセスできます。
- ステップ 3** セルフプロビジョニング IVR で認証を要求するように設定されている場合、次のオプションボタンのいずれかをクリックして、IVR がエンドユーザを認証する方法を設定します。
- [エンドユーザのみを認証 (Allow authentication for end users only)] : エンドユーザは自分のパスワードまたは PIN を入力する必要があります。
 - [ユーザ (Password/PIN の入力) および管理者 (認証コードの入力) を認証 (Allow authentication for users (via Password/PIN) and Administrators (via Authentication Code))] : エンドユーザは認証コードを入力する必要があります。このオプションを選択した場合、認証コードとして、0 から 20 桁までの整数を [認証コード (Authentication Code)] テキストボックスに入力します。
- ステップ 4** [IVR 設定 (IVR Settings)] のリストボックスから、矢印を使用して IVR プロンプトで使用する言語を選択します。使用可能な言語は、システムにインストールした言語パックによって異なります。追加の言語パックをダウンロードするには、cisco.com のダウンロードセクションを参照してください。
- ステップ 5** [CTI ルートポイント (CTI Route Points)] ドロップダウンリストボックスから、セルフプロビジョニング IVR に設定した CTI ルートポイントを選択します。
- ステップ 6** [アプリケーションユーザ (Application User)] ドロップダウンリストボックスから、セルフプロビジョニング用に設定したアプリケーションユーザを選択します。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。
-

関連トピック

[ユーザ プロファイルの設定](#)